３　成果発表会（未咲輝 - SENTAN - 発表会）

未咲輝-SENTAN-発表会

知らないことだらけ、知りたいことだらけ、の私たち。
「うみ」と「そら」と「かぜ」と。この場所でしか出会えない人に出会い、
この場所でしか見ることのできない景色を見てきた私たち。
時代の最先端で、環境に言い訳せず、私たちができることをやっていきます。

日　　時：	令和６年２月15日(木)
会　　場：	伊方町役場６階大会議室
オンライン：	三崎高校 Facebook ページ（QR コード）
主　　催：	愛媛県立三崎高等学校

三崎高校「せんたんプロジェクト」

ビジョン：

伊方町唯一の高校である三崎高校は、過疎化、少子高齢化が進む地域において、地域活力の一端を担う存在として、地域的役割が増してきている。

そうした状況へのアプローチとして、高校生による「地域における新たな主体形成（地域活動のプロジェクト化）」が、課題改善の一つの方向性ではないかと考え、高校生自らが地域に入り、地域と協働して町づくりを行う「せんたんプロジェクト」を行ってきた。

そうした状況を踏まえ、総合的な探究の時間等を通じた「地域」との連携を深めている。

一方で、学校教育が目指す、学校と地域の連携・協働の在り方と、地域側の持つ「個別の課題解決に必要なマンパワーの間の擦り合わせ」には、より高度化された「地域協働の一体的仕組み」が不可欠だと考えられる。

今回は一年間の活動の成果を各研究班及び校外関係者と共有することで、今後、より良い活動を行っていくための、きっかけにすることをねらいとしている。

スケジュール　2月15日（木）

＜プロジェクト活動＞

12：30～12：40　開会行事

12：40～13：30　各種発表

13：30～13：40　休憩

＜総合的な探究の時間＞

13：40～15：00　各種発表

15：00～15：10　閉会行事

Ⅳ　評価・分析

1　ルーブリック

年度当初の４月と年度末の２月に、全校生徒を対象にルーブリックによる探究活動の自己評価を行った。年度当初は、ほとんどの生徒が全ての項目において、C評価が 50%以上、B評価が 40%程度という評価であった。しかし、一年間の活動を通して、各項目においてC評価が大幅に減少し、A評価以上の評価がおおむね 40%を超えるなど、大幅な成長が見られるようになった。また、各項目においてわずかではあるが熟達レベルであるS評価をつけている生徒もおり、リーダーシップを発揮することのできる生徒の増加が見られた。１年生は、地域理解・自己理解に多くの時間を当てているため、自分たちでプロジェクト学習を企画・実践する時間が多くなかったこともあり、４月、２月ともにやや低めの評価をしている生徒が他の学年に比べると多かった。２、３年生は、４月の時点でA評価を付ける生徒も見られるなど、これまでの積み重ねによる成長が見られた。外部人材との協働や探究活動を通して、生徒の力が伸長したことはもちろん、成功体験の積み重ねが、生徒の自己肯定感を高めたことも影響しているのではないかと考えられる。

令和5年度　みさこう・せんたんプロジェクト　ルーブリック　　(　　)R (　　)番　氏名(　　　　　　)

学習成果		レベルC	レベルB	レベルA	レベルS	評価理由	
評価項目		初心者・初級者レベル <知識・理解>	自立・学習者レベル <応用・分析>		熟達・職人レベル <統合・普及>		
地域活性化プロジェクトプランの計画	計画力	サポートを受けながら、プロジェクト全体の概要を理解している。	自分のプロジェクトに必要な情報を収集し、自ら計画を立てることができる。	自分のプロジェクトについて、現状や実現性を客観的に分析し、修正することができる。	自らが、成功する計画を立てるとともに、他者のプロジェクトについても的確なアドバイスをすることができる。	4月 自分の力だけでは何も行動に移すことができず、他の人と協力する必要があった。まだプロジェクトに慣れておらず、全体の概要を理解することが精一杯だった。(C)	2月 自分から率先して行動することができ、協力しながら目標を達成することができた。他者から見て、無理があることや、あまり魅力がないと感じるプロジェクトについて考え直すことができた。(A)
	4月	56%	39%	5%	0%		
	2月	13%	41%	41%	5%		
	判断力	サポートを受けながら、自分の地域の特徴を理解している。	自分の地域の現状や課題について必要な情報を収集し、適切に判断できる。	情報を収集・分析するとともに、現状を踏まえ、プロジェクト達成のための判断を適切に行うことができる。	プロジェクト達成のために統合的な情報に基づき、全体的な立場で考察・判断することができる。	4月 地域の特色や商品化した際の課題などを考えることができた。この地域ではどのようなアプリが役立つのかについて考えることができた。(B)	2月 職業体験や地域の方々からお話を伺う機会が多くあり、三崎の現状について理解することができた。相手の意見を踏まえつつ、情報をしっかり見て判断できるようになった。(A)
	4月	47%	44%	9%	0%		
	2月	14%	47%	35%	4%		
地域活性化プロジェクトプランの実践	実践力	サポートを受けながら、プロジェクト達成のために自分がすべきことを理解している。	プロジェクトの目的と自分の役割を理解して、知識や経験を応用して自発的に行動している。	プロジェクトの状況を観察・分析し、目的の達成のために臨機応変に行動することができる。	プロジェクト全体を総合的に把握して、これまでの経験を生かしながら、リーダーとして活動することができる。	4月 サポートはあったが、イベント時には自ら行動することができた。地域のイベントに参加し、経験と知識をつけることができた。(B)	2月 次に何をするか考え時間を有効に使うことができた。分からないことは人に聞き、理解を深めることができた。全員で分担することで、急な課題に対しても臨機応変に対応することができた。(A)
	4月	52%	42%	6%	0%		
	2月	18%	43%	38%	1%		
	調整力	プロジェクトチームのメンバーには、様々な立場や意見があることを知っている。	多様な意見や立場の違いを理解し、周囲の人々や物事との関係を調整することができる。	多様な意見や立場の違いを認め、学び合うことで、意見をまとめるだけでなく、新たな考えを発見し深めることができる。	幅広い年代の人や、自分とは異なる意見の人など、どの様な人とでも協働して活動することができる。	4月 それぞれの立場や意見があることは知っていたが、上手くまとめることができなかった。初めは、周囲の意見を理解することで精一杯だった。(C)	2月 協力してくださった地元の方々をはじめ、多くの人と関わりを持ち、協働して活動することができた。地域の方や県外の方の意見を取り入れながら活動することができた。(S)
	4月	51%	38%	10%	1%		
	2月	18%	40%	33%	9%		
プレゼンテーション	コミュニケーション力	プロジェクトの内容を理解し、相手に伝えることができる。	自分が伝えたいことを適切に伝えるための方法を学び、相手に伝えることができる。	相手や場に応じて、自分が伝えたいことを聞き手に効果的に伝えることができる。	単に情報を発信するだけでなく、他者を動かすことができるような情報発信をすることができる。	4月 伝えることで精一杯で、方法の工夫や情報の取捨選択ができなかった。分からないことは他の人に聞くなどして、プロジェクトについての情報を適切に伝えることができた。(C)	2月 プレゼンテーションやポスターを活用し、相手の立場に立って伝わりやすい言葉で要点をまとめたり、テンポなどを工夫したりすることができた。(A)
	4月	51%	43%	6%	0%		
	2月	14%	44%	37%	5%		

２　目標と実施状況

本事業の研究開発開始時に三つの目標を設定した。

一つ目として「生徒による３年間の地域探究活動を通して、地域を担う人材としての資質・能力の向上度 100%」という目標を設定した。目標設定の考え方としては、本構想における地域の課題発見、解決に向けた、主体的・協働的な取組により、地域を担う人材としての資質・能力を身に付けることができたかを、成果物の作成や情報活用能力の向上等を通して評価するとともに、学習内容の確実な定着を図ることとしている。年度当初と年度末に行った生徒のルーブリック評価等の結果から、生徒の資質・能力の向上を図ることができた。令和６年度は、新学科設置の初年度ということもあるため、生徒の資質・能力の向上に加えて更なる情報発信に努め、本校生の変容を広く周知していきたい。

二つ目として「大学等進学者のうち、地域創生関係の大学・学部等への進学者数 50%」という目標を設定した。目標設定の考え方としては、大学等に進学した後、多分野において得た知識や技能を生かし地域産業等に貢献することは、地域活性化のために必要不可欠であるため、高校での学習を通して、生徒の進路に対する意識の向上を図ることとしている。令和５年度は、大学等進学予定者 22 名のうち地域創生関係の学部に進学した生徒は３名の 14%という結果となっている。それに加えて、大学等進学者の中には、大学卒業後に出身地等で教職などに就くことを考えている生徒もおり、地域を担う人材としての素養を育むことができていると感じた。高校３年間での地域連携活動や探究活動を通して、郷土への愛着が高まった結果ではないかと分析している。高校３年間での活動を大学での学びにつなげ、地域創生関係の大学・学部等への進学者数を増やすためにも、令和６年度は探究活動の在り方等を再検討していく必要があると考えている。現在、協働している大学等を含め、地域創生関係の学部を有する大学との連携など新たな取組方法を検討していきたい。

三つ目として、「高等学校卒業後及び大学等卒業後の出身地への就職者数の割合 70%」という目標を設定した。目標設定の考え方としては、高卒人材の就職は地域活性化に必要であり、大学等卒業後の「ブーメラン人材」は活力ある地域づくりに不可欠であるため、中期的な視点に立ち、地域を担う人材の育成を目指すこととしている。令和５年度は就職者 10 名のうち、４名が出身地での就職が内定しており、40%という結果となっている。また、伊方町外出身の生徒２名が伊方町役場に就職するなど、伊方町に対する愛着の高まりが感じられた。今年度は、２年生を対象とした地元企業の合同説明会である「job フェア in 三崎高校」を実施し、伊方町を中心に９企業に、企業や仕事の内容ややりがいについて説明していただくことで、生徒の地域企業理解を深めた。また、今年度から、地域の方の「仕事」と「その人の生きざま」をインタビューしてまとめる「みさこう仕事図鑑」の制作に取り組んだ。仕事図鑑の目標としては、キャリア教育の側面と探究活動の側面という二つの面での目標がある。キャリア教育の側面としての目標は、「人間関係形成力や課題解決能力の育成、自己理解の推進」などが挙げられる。探究活動の側面としての目標は、「自ら問いを立て、その解決に向け情報を収集・整理・分析したり、意見交換や協働をしたりする力を身に付けること」が挙げられる。今年度は、取材先や質問事項の検討、インタビューの練習等を行った。地域の仕事や仕事人に対して深く関わっていくことで、今後生徒の職業選択の際の一助となることを期待している。また、インターンシップの在り方についても検討しており、今年度は約 50 企業に受け入れを引き受けていただき、実際に 44 企業でインターンシップを行うことができた。令和６年度以降も生徒一人一人の興味・関心に合わせた、主体性を高める活動となるよう検討を重ねていきたい。これらの新たな取組を通して、変化の激しい社会に対応した新たなキャリア教育を推進していく必要があると感じた。

３　次年度以降の課題及び改善点

令和６年度の社会共創科の設置に向けて、教育課程の編成や、未咲輝ゼミ開講のための準備、「今を創る、未来を変えるトライブ」などを実施したところ、業務内容が多岐にわたることとなり、これまでの業務に加えて新たな業務が積み重なるために、担当教職員にとっては大きな負担となった。また、その多くがこれまでに経験したことのない業務であったため、経験者からのサポートを受けにくいことも負担感を増大させる要因となった。令和５年度は、昨年度に企画・立案した事業の実施や、教育課程及び学校設定科目等のカリキュラムの具体化などが主な業務となったために、各担当者を中心に学校全体でも仕事量が大きく増加した。令和６年度は、社会共創科設置一年目となり、カリキュラムや各事業などを実践しながら微調整を行っていく一年となるため、これまでに比べ事務的な業務量が減少すると考えられる。また、これまでは校内コアメンバーが中心となって新学科設置に向けた事業を推進してきたが、来年度からは各教科におけるＳＴＥＡＭ型授業の推進や、探究活動と教科との往還を意識した指導方法の研究など、教職員一人一人が「当事者」として本事業に関わっていくことになる。そのため、定期的に校内研修を行ったり、事前の打ち合わせを密に行ったりすることで、スムーズな業務遂行及び負担の軽減に努めたい。

今年度は大正大学の浦崎太郎教授に来校していただき、校内研修を実施することで意識の共有と普通科改革を行うための意義等について研修した。また、Prima Pinguino 代表の藤岡慎二氏からＳＴＥＡＭ教育に関する研修を二度行っていただいた上で、愛媛県教育委員会高校教育課職員による学校訪問研修において全教職員がＳＴＥＡＭの観点を取り入れた教科等横断型授業を行うことで、教職員のスキルアップの機会とした。

来年度以降も適宜研修会を実施するとともに、コンソーシアムメンバーをはじめとした外部人材との密な連携や、校務支援システムの積極的な活用などを通して、教職員の資質向上・スキルアップに努め、本事業をスムーズに推進していきたい。

Ｖ　資料

1　概要説明資料

『今を創る、未来を変えるトライブ』
～Engage the present, Shape the future.～

12月18日・19日

「今を創る、未来を変えるトライブ」

〇学習目標：チームビルディング力
　　　　　　コンテクスト・シフティング力

〇協議テーマ：『What is 地域 / Why is 地域』

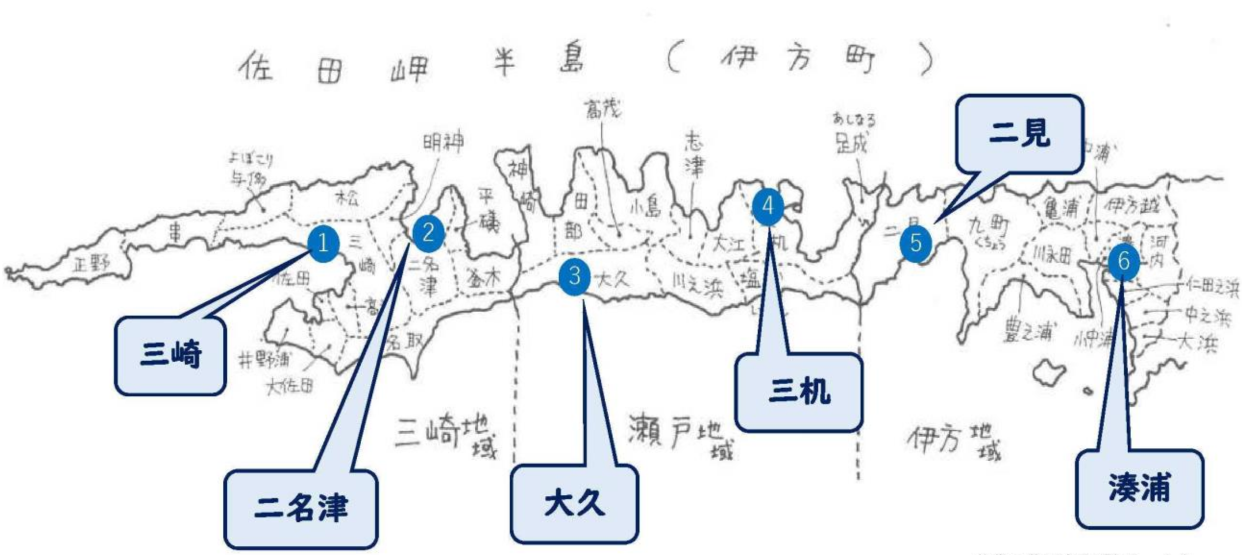
〇参加生徒　：県内外7校28名

〇参加生徒で６班編成し、各班が伊方町の６集落でフィールドワーク。フィールドワークの成果として、各集落の広報用動画を作成。

「今を創る、未来を変えるトライブ」

12月18日	
時間	内容
13：00～	開会行事
14：00～	フィールドワーク
18：30～	動画作成

12月19日	
9：00～	動画発表
9：50～	CM制作ワークショップ
12：00～	閉会行事



出典：佐田岬民俗ノート１

5

Q『今トラ』でのコンテクスト・シフティング体験は？

事後課題シートより

事前	事後
過疎化で<u>人間関係が希薄</u>	過疎化で<u>人間関係が密</u>
過疎化は<u>問題</u>	過疎化は<u>再発見のチャンス</u>
県外生と学校生活は当たり前	県外生と学校生活は希少体験

「今を創る、未来を変えるトライブ」

令和６年度の『今トラ』（案）

◎ 活動内容は伊方町のフィールドワーク

◎ 参加校・参加生徒を公募

◎ メンターは愛媛大学とＡＰＵの学生

カリキュラム開発

令和６年度入学生カリキュラム

注釈）
HR＝ホームルーム活動
TL＝トライブ・ラーニング
SC＝せんたんコミュニケーション学

［　１年生　］

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th><th>17</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th><th>28</th><th>29</th></tr>
<tr><td>共通</td><td colspan="2">現代の国語</td><td colspan="2">言語文化</td><td colspan="2">歴史総合</td><td colspan="3">数Ⅰ</td><td colspan="2">数A</td><td colspan="2">科学と人間生活</td><td colspan="2">体育</td><td>保健</td><td colspan="2">音Ⅰ
美Ⅰ</td><td colspan="3">英コミⅠ</td><td colspan="2">論・表Ⅰ</td><td colspan="2">情報Ⅰ</td><td>TL基礎</td><td>未咲輝Ⅰ</td><td>総合</td><td>HR</td></tr>
</table>

［　２年生　］

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th><th>17</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th><th>28</th><th>29</th></tr>
<tr><td>地域探究</td><td colspan="2" rowspan="3">文学国語</td><td colspan="2" rowspan="3">地理総合</td><td colspan="2" rowspan="3">公共</td><td colspan="2" rowspan="3">化基</td><td colspan="3" rowspan="3">体育</td><td rowspan="3">保健</td><td colspan="3">情報処理</td><td colspan="2" rowspan="3">家基</td><td colspan="2">英コミⅡ</td><td colspan="4">数Ⅱ/芸Ⅱ＋ビジネス-ファッション</td><td colspan="2" rowspan="3">古探</td><td rowspan="3">TLⅠ
SCⅠ</td><td rowspan="3">未咲輝Ⅱ</td><td rowspan="3">総合</td><td rowspan="3">HR</td></tr>
<tr><td>人文探究</td><td colspan="3" rowspan="2">英コミⅡ</td><td colspan="2">論・表Ⅱ</td><td colspan="4" rowspan="2">数Ⅱ</td></tr>
<tr><td>科学探究</td><td colspan="2">物基</td></tr>
</table>

［　３年生　］

<table>
<tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th><th>14</th><th>15</th><th>16</th><th>17</th><th>18</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th><th>23</th><th>24</th><th>25</th><th>26</th><th>27</th><th>28</th><th>29</th></tr>
<tr><td>地域探究</td><td colspan="2" rowspan="3">体育</td><td colspan="2" rowspan="2">地域文化と国語</td><td colspan="3">政経</td><td colspan="2">英語コミⅡ</td><td colspan="2" rowspan="2">古探</td><td colspan="3" rowspan="2">簿記／数B・数演Ⅰ</td><td colspan="2">マーケ／芸探</td><td colspan="3">ソフトウェア活用</td><td colspan="2">服飾手芸</td><td colspan="2">フードデザイン</td><td colspan="2" rowspan="3">論国
生基
保基</td><td rowspan="3">TLⅡ
SCⅡ</td><td rowspan="3">未咲輝Ⅲ</td><td rowspan="3">総合</td><td rowspan="3">HR</td></tr>
<tr><td>人文探究</td><td colspan="5">日史探</td><td colspan="2">論・表Ⅲ</td><td colspan="3" rowspan="2">英コミⅢ</td><td colspan="2">倫理</td><td colspan="2">数演Ⅱ</td></tr>
<tr><td>科学探究</td><td colspan="4">数Ⅲ</td><td colspan="2">数B</td><td colspan="2">数C</td><td colspan="4">化学</td><td colspan="2">地探</td><td colspan="4">物理</td></tr>
</table>

●オンリーワンのカリキュラム開発　●地域との連携をさらに強化

カリキュラム開発

カリキュラムの特徴

①コース選択に関係なく進学・就職が可能

②全学年で地域連携に関する学校設定科目を履修

※未咲輝学、トライブ・ラーニング、せんたんコミュニケーション学

③地域探究・人文探究コースでは、本校独自の学校設定科目『地域文化と国語』を履修

カリキュラム開発

地域連携を中心とした教科

追加

	総探	未咲輝学	トライブ・ラーニング	せんたんコミュニケーション
1年	◎	◎	◎	—
2年	◎	◎	△	△
3年	◎	◎	△	△

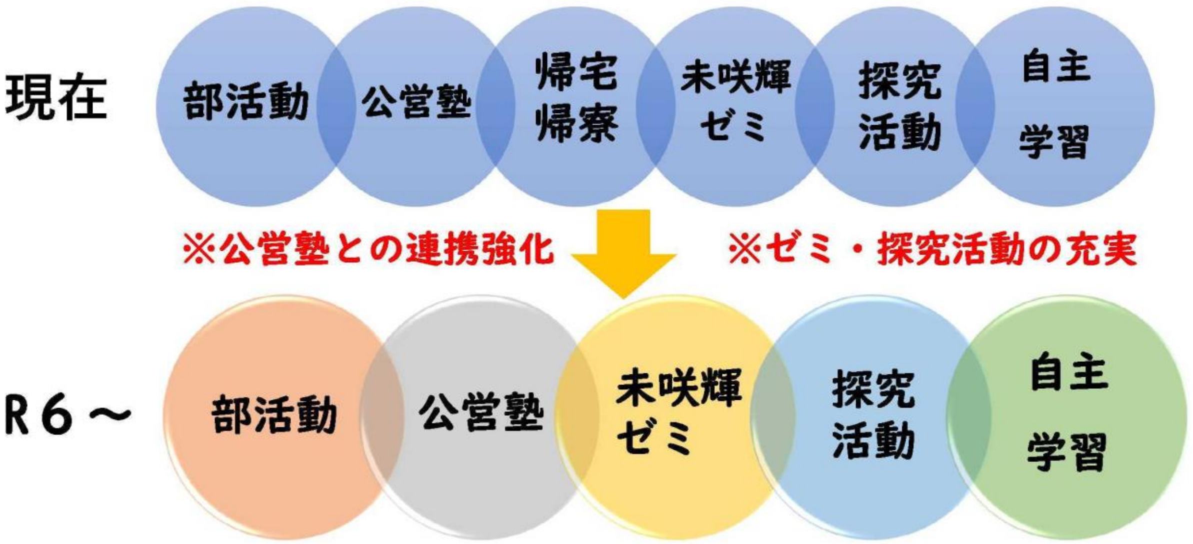
◎全員　△選択

カリキュラム開発

学習内容

	総探	未咲輝学	トライブ・ラーニング	せんたんコミュニケーション
１年	自己理解	地域理解	・表現手法 ・地元お仕事図鑑	―
２年	班別活動	リーサス 企業体験	他校連携	SNS等を用いた表現活動
３年	班別活動	起業	他校連携	SNS等を用いた表現活動

放課後活動の充実



○個別最適な学習環境　○学びに向かう主体性

都道府県の枠を越えて、地域の学校に入学し、
充実した高校生活をおくること。
北海道から沖縄まで日本の各地域にある魅力的な学校には、
そこでしかできない体験と新しいチャレンジが待っています。
越えて、
行こう。
地域みらい留学
オンライン
6月7月8月
対面(東京)
9月

学校見学は随時対応
オンラインでの個別説明会も実施
愛媛県内
中学校、教育機関
学校説明会
令和５年度訪問校
20 箇所

未咲輝ゼミ（放課後ゼミ）

ゼミの概要

（1） 開講日：週１回放課後を基本とする

ア．今年度から試験開催し、令和６年度から本格始動

イ．カリキュラムや進め方、開講頻度は講師に一任（土日等の開講も可）

ウ．講師または実施担当者を増やしたい場合は、一時的なものも含め、事前に学校と相談

（2） 開講場所：本校の教室を基本とし、必要に応じてフィールドワーク等校外での活動を行う

未咲輝ゼミ　令和５年度の取組

（1）佐田岬みつけ隊講座（仮）

講師：黒川　信義、髙嶋　賢二

他、佐田岬みつけ隊メンバー

（2）Basic Medical Fitness & Personal Stretch

講師：大木　喜知（地域おこし協力隊）

戦国の山城 ジオラマに

三崎高・地歴部員 軍勢も人形で再現

地歴部員ら＝愛媛県伊方町で

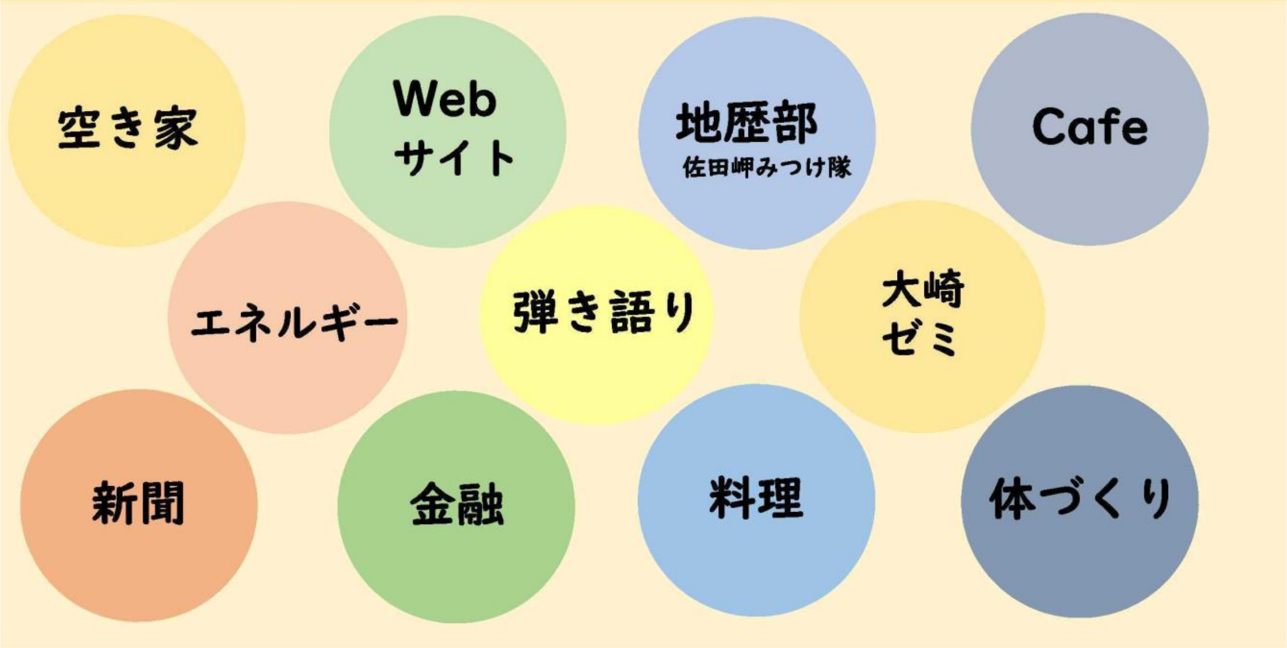
令和５年12月12日　毎日新聞　愛媛

未咲輝ゼミアンケート結果(１・２年８４人)

講座	結果(人)
空き家利活用	４３
料理教室	２８
体づくり	２５
Ｗｅｂデザイン	２２
ＩＴ(プログラム)	２１
佐田岬みつけ隊	２１
Ｃａｆｅ	１１
エネルギー	７

※複数回答
※回答数(延べ)１９１人
※その他７人、無回答６人

令和６年度放課後ゼミ１１講座



みさこうＳＴＥＡＭ教育

みさこうＳＴＥＡＭ教育

ＳＴＥＡＭ教育研修会（３回）

その他の取組

特別授業

林業教室

福祉教室

Jobフェア
inみさこう

28

校外でのプレゼンテーション

地域実践教育南予ブロック集会

えひめスーパーハイスクールコンソーシアムin南予

日本農業遺産「愛媛・南予の柑橘農業システム」

29

イベントの運営・参加

愛媛の海釣ってさばいて甲子園in三崎開催＆優勝

全国高校生「地球の自然」甲子園（ネイチャー甲子園）

いやしの南予BBQ甲子園最優秀賞

30